令和４年度　第２回津山市史編さん委員会議事録【要旨】

日時	令和 5 年 3 月 23 日（木）13 時 28 分～14 時 51 分	場所	津山市役所　202 会議室

◆出席者
【委　員】　在間委員、尾島委員、定兼委員、首藤委員、久野委員、前原委員
【津山市】　総務部長、津山市史編さん室長、室長補佐　ほか 10 名
◆欠席委員　　今津委員、狩野委員、白石委員

１．開　会

２．総務部長あいさつ

３．報告事項
（１）令和４年度の編さん事業の取組状況
（２）編さん委員会、部会の開催状況

４．協議事項
（１）通史編「自然風土・原始・古代」の刊行について
（２）編さんスケジュールの調整について
（３）委員長提案
①通史編の監修について
②委員会議事録（概要）の公開について
（４）その他

５．閉　会

事務局　　令和４年度第２回津山市史編さん委員会を開会（13：28）

部長　　総務部長あいさつ

事務局　　出席者の確認。今津・狩野・白石委員の 3 名が欠席で、9 名の委員のうち 6 名、過半数の出席で会議の成立を宣言

委員長　　委員長あいさつ

◇報告事項　（１）令和４年度の編さん事業の取組状況
（２）編さん委員会、部会の開催状況

事務局　　津山市史編さん室職員より説明
委員長　　報告について意見、質問があるか。
第１回委員会の宿題、どれだけできているか確認したい。一つは正誤表どうするのかと

いうこと。それから「市史研究」「だより」の編集方針、口頭でよろしいから教えてください。「市史研究」に中世資料編の書評もやればいいという発言をしたが、そういう動きが今度の「市史研究」にあるのかどうか、前回の委員会での懸案事項について報告を。

事務局　正誤表は前回の会議で指摘をいただき、今、突合作業をしている。どこまで正誤表として載せるか見えてない部分があるが、でき次第、公開という形で対応する。

「市史研究」については今のところ具体的な進捗はない。原稿はいただいているが。

委員長　原稿、査読というか、読み合わせはしてるか。

事務局　している。

委員長　「市史研究」のこととか、編集する人は裏取りをする必要がある。たとえ個人の論文であっても、その文章については裏取りをするのが編集者の役割だと思うので是非。その際には、編集委員会とかを設けて、協議の記録も留めてもらわないといけない。

事務局　「市史研究」の原稿については、いただいた段階でそれぞれの部会長に査読をしてもらい、偏った内容にならないよう対応いただいているつもり。

「市史だより」の方も、それぞれの専門分野でいただいているので、まず事務局で確認して執筆者にお返しし、相談しながら最終的にまとめさせてもらっている。

委員長　刊行物の中身についてどういうところで苦労されたか。7 月の編さん委員会で編集について意見を言わせてもらったが、どう反映されたのか。

事務局　執筆者の原稿が 7 月の段階では、ほぼ集まっていたと思うが、まず受け取って事務局で確認するのが一番大きいが、原稿の出るタイミングがまちまちだったので、原稿を確認して、図とか文章とかをこちらでレイアウトする必要があったので、それにかなり手間取った。まとめて皆さんに見てもらう機会を設けられれば良かったが、個別の原稿への対応に時間がかかり、全体を出すのが遅れたのが反省点と考えている。

委員長　経験からいくと、予定枚数よりすごく多いものをどう削るか、予定枚数に足らない、書かれてないところをどう補完できるかというようなことなど苦労があったと思うが、レイアウトのことだけか。

事務局　書きぶりがそれぞれ異なるというところ。それから、市史なので、一般の人がわかることが一番だけれど、学者の方がおられるので内容がどうしても偏ってしまうところもあり、一般書、一般の市民が読むという体で、個別の先生、執筆者には修正させてもらった。

委員長　他の部会にも関係することなのであえて言うようにさせてもらった。一通り見させてもらったが、専門用語がたくさんあって市民にはなかなか読みづらいだろうという思いがある。そうはいいながら、いい物、いい原稿になっていると思った。特に災害のことを古代も考古も自然のところも書いてる。この時期にあった市史ができるかと思う。

◇協議事項　（1）通史編「自然風土・原始・古代」の刊行について

事務局　津山市史編さん室職員より説明

印刷部数は 2000 冊（1000 冊）という書き方をしている。これは資料編、民話の別冊とか、従前に刊行した図書の状況から判断した。2000 冊というのはそのままで、今回の印刷は 1000 冊でというのが今回の協議事項の一つ。

理由としては、今まで刊行したものが端的にいうと出ていない。通史編は読み物になるので売り上げの話はよくわからないが、1000 冊発行した場合、他の機関、図書館に配付するのが 300～400 冊という見込みで、残りの 600～700 冊を販売にと考えている。

もう一つは在庫管理の問題。現在、保管場所を確保してるが、在庫を管理する場所がすぐにはという状況になりつつある。そのまま置いておくと傷むので、そういうことを避けたい意味合いもある。

3番目の刊行スケジュールだが、現段階でのおおよその刊行スケジュール。ゴールを年内でいきたい。

委員長　これまでの資料編は1000部だったが、今度は通史だからもっと売れると思って予定では2000部発行に変えていたが1000部でという意見か。

事務局　2000冊という数字は下ろすつもりはないが、在庫を抱えるよりは、ある程度早い段階で在庫を掃いて増刷という方が印象もいい。

委員長　予算の使い方だな。2000冊で発注した方が単価は安くなる。1000冊でしたら、もう一回入札ということになるのか。

事務局　そう。

委員長　また高くつく、販売の値段は一緒か。

事務局　値段は一緒。

委員　2000冊を1000冊にするのは大きい判断になると思うが、今までの本がどのぐらい売れてどのぐらい在庫を抱えてるのか、在庫数が実数で示されないといけないし、なぜ余るのかというところの検討がなされてないのでは。

書評を頼むとか紹介を頼むとか、発刊記念のイベントをしてみるとか、購買意欲を増すような機会を準備していることが前提で、そういうことが十分でないままに、ただ数を減らすというのは短絡的な発想ではないか。こういう大切な議論するなら、その前の段階の準備をしたうえで提案した方がよかったのでは。

委員長　これまでの物がいくら売れてるか。

事務局　資料編「考古」は令和2年度44冊、3年度に22冊、4年度は6冊販売というのが実績。印刷部数は1000部なのでまだまだ在庫がある。資料編「古代・中世」は、本年度の販売開始以降、53冊販売。250冊贈呈、販売53冊というのが2月現在の数字。

委員長　2000刷るが、今回は1000でという話。いいものができるから力いっぱい宣伝して、800頁近いものが4000円。宣伝すると何とかなると思うが。

私たちも微力だが様々なところで宣伝して参るので、2000は変えない、入札にあたっては1000で進めさせてという意見なので、そうことでよろしいですね。

委員　結構。

委員　簡単なチラシやリーフレットみたいなものを作って、あちらこちらに置いておく、そういう手はずなどはこれまでしてないのか。

事務局　結果的にはできなかった。

委員長　是非やってください。

委員　通史編の仕様の話の中で、年表・索引を加えるという話があったが、年表とか索引を作る作業は結構大変かと思うが、どういう体制で原稿を作っているのか。今回が最初だから、これから後の通史編の巻についても、年表や索引はどういう内容にしていくのかということとも関わっていくので、その辺りを教えて。

事務局　自然風土と原始に関しては、初稿が終わった段階のものを全部読ませてもらい、必要な事項を全部抽出している。詳しく説明のあるもの、遺跡に関するものなどを中心に年表を作成し、あまり説明のないものに関しては省いて、ページ数は少なめにさせてもらっている。

原稿では触れてないが、絶対的に日本史的に理解する上で必要な項目があり、それに関しては補足的に埋めるという形で、古代になると美作国、県内の出来事とかも増えてくるので、県内の出来事と日本と世界の出来事で三つに分けて年表を作っている。

遺跡に関しては、執筆者によって時期差があるので、一旦、執筆者にメールで送り、時期関係を見てもらっている。古代は古代の方で出してもらっている。

委員長　索引には地名がほしいと言った覚えがあるが、地名にはうちの村の地名があるとか、地名索引を是非お願いする。

委員　年表・索引を各巻に入れるのは徹底していたか。

委員長　入れる。通史編の第１巻が出たので一つのスタイルがここで確立することになる。

◇協議事項　（２）編さんスケジュールの調整について

事務局　編さんスケジュールの調整については、令和５年度に近現代資料編製版が事実上、難しい状況になっている。結論から言うとずらさざるをえない。まだ詰めれてない状況だが、スケジュールを組み直して提示させてもらえれば。

委員長　１年延伸。来年以降については、改めて委員会との協議を踏まえて、仕切り直し的なことをするかもしれないが、来年予定してた分はできないと言っているわけだ。

委員　なぜ遅れたのかという説明がほかの部会の者にはわからない。他の部会も苦労しながら間に合うように作ってきたわけだから、何で遅れてるのか、予算も絡むことだし報告があるべきではないか。

事務局　近現代部会で、来年度の資料編作成に向けて執筆者、事務局も準備をしてきた。近現代については担当職員が休職になった。担当が変わり、一生懸命やってくれていたが、その職員も休職せざるをえない状況で、事務局の役目が果たせてないのが原因。

連絡を取りながら進めてきたが、担当していた者が２名いない状況で具体的な作業が進んでいない。編さんスケジュールの調整という言葉を使っているが、延ばさざるをえないというのが理由。

委員　わかった。資料が集まってないわけではない。

事務局　資料については、大分、提出いただいている。まだこういった部分が不足するという面はある。それを取りまとめて、すぐ版下作成という業務として俎上に乗せていくのが難しい状況にある。

委員　なぜ刊行計画がずれたのかというのはどこかで説明がないと、結論だけ聞かされたら何でかと思う人もいる。ある程度の説明が果たされる方がいいと思ったから聞いてみた。事情を聞けばよくわかった。

委員　部会としての資料選定の作業はそれなりに進んできている。それを取りまとめてもらう事務局を担当するところで大変な状況が来たということで、しばらく様子を見ながら進めざるをえないと考えている。

委員　去年４回部会を開いて資料選択を進め、執筆者も力を尽くしているところ。次はこういうことが必要という前向きな話もできているので、できれば編さん体制、近現代部会の編さん室の方がどうなるか、何か足がかりを聞いておければ安心できる。

委員　体制がどうあれ、部会としての進行はゆるめずにまいろうかと思っている。よろしくご協力をいただきたい。

部長　体制を整えていきたいと考えているので、若干の時間をいただきたい。

委員長　　是非よろしく。体制が整わないとできないということがはっきりしたわけだから、是非お進めください。

5年度の刊行は難しいが、部会としては資料の取りまとめ、編集の準備などは進めるということで、会議についても丁寧に話し合いを持って進めていくことは、是非続けさせてください。

事務局　　5年度は通史編の「自然風土・原始・古代」を出す。

委員長　　ゆくゆくの刊行、通史編をどうするのかについて、中生と近世を合体する巻があるが、中世は資料編が先に出ているので先に通史編を出したらどうか提案させていただく。

委員　　この前の中世部会で相談になったのは、中世の執筆がやっぱり少数で、本業、職務の方が随分忙しくなってきているので、執筆者を補充するなり、強化することが必要だという話になっている。中世と近世の境目の取り扱いなどについても、改めて相談させてもらわないといけないというところまで、この前の部会では話になっている。個人的な判断としては、今の執筆体制で1冊持つというのはかなりハードじゃないかという感触を持っている。

委員　　刊行年度を早めるというのは、準備をしている者からいうとすぐにはできないということがあるのと、我々の足らざる部分を補ってもらう執筆者がどうしても必要だという話になって、その方にお話したり、了解をもらったり、原稿書いてもらうとなると、一定の期間が必要になってくると思うので、中世だけを先行して発刊するのは、すぐにできることではないという印象を持っている。

中世と近世Ⅰを切り離すかどうかは議論があると思うが、離すとなればページ数が少ない1冊ができることになる。

委員長　　分厚い冊子もあれば、薄い冊子があってもいいのでは。2月に近世部会の方に境界線をどうするかという話が来たから、それはそれぞれの部会でやればいい、いっその事、冊子を分けたほうがやりやすい、というのが事の始まり。

委員　　切り離すかどうかは別の話だと思うが、中世だけが単独で早く書ける状況ではない。

委員長　　まだ先だから、改めて考えよう。

委員　　近現代の製版が遅れると、一つずつ遅れるという気もする。私は民俗も関わるが、いつになったら民俗は出ることになるかというのも。

委員長　　民俗は話者に早く返してあげたいという気持ちがあるでしょ。そこは通史編の順番構成をもう一度、改めて仕切り直ししよう。次回に出版計画をもう一回やろう。

◇協議事項　（3）委員長提案

委員長　　4の(3)で委員長提案、通史編の監修という言葉を書いた。(2)の委員会議事録の概要公開というのも、やはり市民へきちんと説明する必要がある、概要でもいいからというのがあって提案させてもらった。

通史編の監修というのは、やはり全巻を通じて見る者が必要だと思った。中身のこともあるが、全体について、それなりの体裁についてコメントする。もちろん部会長の責任でやってということもあるだろうが、通史編の監修を委員長にさせてもらいたいというのが一つの提案。

第三者の目を通す、大所高所からざっくり見る、編集者が第一の読者ならば、第二の読者という監修者の立場として見させてもらいたい。これは一つの冊子として必要ではない

かと思って提案させてもらったが、いかがか。

委員　お願いする。実務の担当はやるから、今言われる全体をというようなことでいけば、どなたかにお願いすると。それが今、委員長が立候補されたということで。

委員　とても大事なことだと思う。各巻でばらつきがあったり、どこまで深く触れてるかというのも、各巻だけの中で完結していたらどうしても浅いところもあったりすると思うので、そういった統一性とか、或いは構成についても。

今、各巻が細目次とかを作ったり、練り直しているところなので、そういうとこから加わってもらって、ここをもう少し強調したらいいんじゃないかみたいなことを言ってもらえると我々もありがたい。あと、読み物としての統一性というのがあると思うので、執筆者のくせが出たり、読み物としてぶつ切りになっているところを是正するには、読者としての確かな目が必要になると思うので、必要なことかと思っている。

委員　具体的な監修の中身と時期の問題だが、項目とか、目次編成の段階から刊行直前まで、色々なレベルがあると思うが、監修の作業を具体的にどの段階で、どういう形でされるイメージなのか、共通認識としておいた方がいいと思う。非常に負担をかけることになるので、その辺のイメージはどうお考えか。完成直前、最後の点検というイメージか、作り上げていく中身づくりの段階から見てもらう形になるのか。

委員長　最終段階になって、章の名前、節のあり方とかいうことについて申し入れをした。そこまでされたら困ると思うので、章立ての状況説明ぐらいのことを聞いておいたら。

委員　それは、目次を見たときに統一が取れてないとか、そういうことか。

委員長　１章があって２章がない、序章がないのに終章だけあるとか。出された原稿を良い木か悪い木か一生懸命見て編集しているけれど、それが森の中でどういう位置付けなのか、監修とはそういう大きな話だと思う。

委員　最初の細目次とか、目次を作る段階はかかわった方がいいと思う。ある程度書き進めた段階でここが足らないとか言われても困る。本格的に書く前の段階がまず一つ、初校ができ上がった頃に目を通してもらうというところがある。

委員長　ご意見をもらったので、通史編を進めるにあたってはそれぞれの部会がするのともう一つ、監修者という立場の者を設けるということでお願いする。

続いて、委員会議事録の公開について協議をしておきたい。今回からするか、次回からかは別として、公開する方向での提案をさせてもらう、皆さんいかがか。

委員　いつもの議事録が大変詳しいと思うが、同じものか。

事務局　毎回、2 種類をお配りしている。完全に起こしたものと簡易版。簡易版をベースにしたもので出させてもらえたら。

委員長　議事録を出すということは議事資料も出さないといけない。これも調整をしてもらった方がいいかもしれない。

部長　会議録については備え付けをするということがあるが、公開となるとなかなかそこまでは至っていない。一部に留まっている。

委員長　市史編さん委員会はちゃんと公開してるということになると、市民の注目度を集める、誠意ある会議をやっていると。遅れているが頑張っている、そういうのを示すのも会議録の意味がある。

事務局　具体的な内容については、所管の課とすり合わせをしてみたい。

委員長　様々な部局、いろいろな方法があるだろうが、この委員会はする方向で所管との調整をお願いする。

事務局	調査に出られた際の報酬対応ということで、旅費と謝礼相当分を謝金という形でお礼をさせてもらっている。前回、自宅での作業についてご意見をもらっていたが、支払いの方も基準が厳しくなっているので、例えば自宅近隣の公共施設、図書館や公民館とか、そこで持ち帰った資料とかを整理される分については、県内外に調査に行かれた際の形と同様の取り扱いをさせてもらう。詳細にいては、従前の調査に行くやり方、事前に事務局に一報いただき、事後に報告いただくというのが基本。やり方については各担当から連絡させてもらう。
委員長	結構、宿題をもらったと思う。部数を減らすなら説明理由がいるというようなこと。それから、どれだけキャンペーンをしたかとか努力の跡も見せないと説明にならないということを心に銘じてください。そのうえで、難しいことについては委員会の方も引き受ける。 協議事項は以上。
副委員長	副委員長あいさつ
事務局	第２回津山市史編さん委員会を閉会（14：51）